

プロローグ

駐車場の夜は長くてわたしたちちいさくなって朝を迎えた

鼻歌でしか思い出せないラブソングをどこからラブって思ったんだろう

間違えてしまわないようにとうめいな糸が命をつないで、きみと

ゆるキャラのぬいぐるみとか何匹も並んでちよっときもちわるいな

はじめての会話はたしか、この先をまっすぐ進めばいいよ、だったっけ？

きみとならどこでもいっていいよっていったの、わたし。おぼえてないの？

寝癖とかつかないように眠らせてあげるからって口説いたんだよ

ひとをすきにならないならなききめてもきみがどうしてもすき

ここまでがプロローグですここからはわたしとふたりで生きるおはなし

やっぱむいてないよね、わたし 包丁が欠けるくらいに不器用なもの

不器用なひとでいいのといってくれた きみだったからわたしでいられた